

学校教育目標	【ひとつの命 がんばる心 しんじあう仲間】 ○柔軟な見方考え方をもち、好奇心豊かに学び続ける子を育てます。(知) ○自他の良さに気づき、思いやりの気持ちをもつ子を育てます。(徳) ○豊かな心と健やかな体をもち、命を大切にすることを育てます。(体) ○自分の行動に責任をもち、地域とともに生きる子を育てます。(公) ○自分の気持ちを素直に表現し、様々な社会の変化に対応できる子を育てます。(開)				
	学校概要	創立 45 周年 児童生徒数: 367 人	学校長 梅田 研一 主な関係校: 金沢中学校	副校長 遠矢 孝	2 学期制 一般学級: 12 個別支援学級: 3

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	金沢中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈目標に向かって粘り強く取り組む力〉 〈自他を認め、豊かに生きる力〉 〈コミュニケーション能力〉	金沢中学校 金沢小学校 八景小学校 文庫小学校 釜利谷東小学校	課題解決のために協力する子ども 他人を思いやり、地域社会に貢献しようとする子ども ・社会性や協働性、課題解決能力やコミュニケーション能力を高めるために、地域や社会、自然等と触れあう豊かな体験を通じて、様々な人々と関わりながら、探究的な学習を行う。 ・社会で働いている人々や行われていることの本質に触れたり、働くことの意義や喜びを感じたりできるように職場体験や職場見学を行う。

中期取組目標	○子ども一人ひとりを大切に、互いに認め合える関係づくりを通じて、保護者・地域に信頼される学校を目指します。 ・学習の楽しさや自己の成長を実感できる授業づくりを行い、自己肯定感と共に自己有用感を高めていきます。 ・気持ちのよい挨拶を通して互いを尊重し合う意識を高め、だれもが安心して豊かに学校生活を送れるようにします。 ・自己の心や体、生活を見つめ、健康的な生活習慣が形成できるようにします。 ・まちとの連携を軸にまちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 確かな学力	①子どもたちが、既習内容や学習経験を振り返りながら、自分の課題を解決していけるような授業づくりをする。 ②授業の中で、友達との対話や協働によって課題に取り組む学習形態を取り入れる。
徳 豊かな心	①学年やブロックで連携しながら子どもの実態をつかみ、多面的に子どもの様子を把握し児童を理解する。②全教育課程で子どもの心を育てていくことを意識できるよう道徳教育全体計画と別業を活用する。③道徳の授業を軸に、学級活動で自分のよさを認識、発揮したり、他者への思いやりを育んだりし、道徳で学んだことを生かすようにする。
体 健やかな体	①体づくりとともに仲間づくりを推進し、体と心の健康の保持・増進・向上をめざす。②楽しく進んで運動し、バランスのよい体づくりに取り組む。③仲間と一緒に体を動かすことを通して、自分のよさ・様々な人やものよさをとらえるようにする。
公 自分づくり教育 (キャリア教育)	①目標を立てて自分の成長を振り返ることで、よりよい自分を目指す活動を6年間積み重ねていけるようにする。
いじめへの対応	①YPや市のいじめアンケートだけでなく、毎月の生活アンケートを継続し、子どもとの面談を行うなど一人ひとりにきめ細やかな支援ができるようにしていく。②事案が発生した際には、複数名による聴き取りや事実の確認と記録など手厚い初期対応を徹底する。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①毎月の第1木曜日にブロック研、第2～第5学年研日を設定し、学習内容・行事・児童理解についての情報共有や研修を行い、職員の力量の向上を目指す。②メンター研を毎月設定し経験の浅い職員と共にミドルリーダーの育成を推進する。③余剰時数の削減や、行事計画が職員の働き方にどのような成果と課題があるかを検証し、改革していく。
児童指導	①多くの教職員の目で、多面的に子どもたちを見とり、打ち合わせなどで情報を共有する。②児童指導委員会では、児童理解に関わる事案を取り上げ対応を確認したり、釜利谷東スタンダードをについて見直したりする。③不登校児童を含め保護者との連携を図り、共に子どもを育てていく姿勢を示していく。
特別支援教育	①年7回の特別支援全体会で共通理解を図り、同じ方向性のもと学校全体で特別支援教育に取り組むとともに、個別の指導計画・個別の教育支援計画の加筆・修正・活用を進める。②特別支援Coが中心となり各ブロックで事例研修を年2回行い具体的に話し合うとともにケース会議を随時行い目標・評価・改善を繰り返す。
安全管理	①アフターコロナを見据えて避難訓練を計画的・段階的に実施する。指導内容と振り返り(職員・児童)を大切に、危機対応力を高めていく。関係各機関との協力も積極的に行う。②大規模災害の発生を想定し、児童・職員一人ひとりの防災意識を高めるとともに、学校・家庭・地域の防災体制の共通理解を図る。
地域学校協同活動	①地域学校協働本部の立ち上げに伴い、学校・地域コーディネーター主導のもと、各種活動(読み聞かせ、蓮田整備ボランティア、園芸ボランティア、登下校見守り、授業の学習アシスタントなど)を定着させていく。

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

【ひとつの命 がんばる心 しんじあ仲間】

- 柔軟な見方考え方をもち、好奇心豊かに学び続ける子を育てます。(知)
- 自他の良さに気づき、思いやりの気持ちをもつ子を育てます。(徳)
- 豊かな心と健やかな体をもち、命を大切にすることを育てます。(体)
- 自分の行動に責任をもち、地域とともに生きる子を育てます。(公)
- 自分の気持ちを素直に表現し、様々な社会の変化に対応できる子を育てます。(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

具体化した資質・能力

〈目標に向かって粘り強く取り組む力〉
〈自他を認め、豊かに生きる力〉
〈コミュニケーション能力〉

主体性・積極性 協調性 自らを客観的に見つめる態度
進んであいさつをする態度 誰とも隔てなく接する態度
相手の立場や心情を考えて話す力

中期取組目標

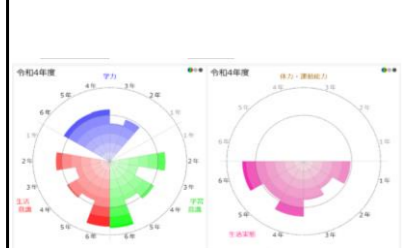
- 子ども一人ひとりを大切に、互いに認め合える関係づくりを通じて、保護者・地域に信頼される学校を目指します。
- ・学習の楽しさや自己の成長を実感できる授業づくりを行い、自己肯定感と共に自己有用感を高めていきます。
- ・気持ちのよい挨拶を通して互いを尊重し合う意識を高め、だれもが安心して豊かに学校生活が送れるようにします。
- ・自己の心や体、生活を見つめ、健康的な生活習慣が形成できるようにします。
- ・まちとの連携を軸にまちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①子どもたちが、既習内容や学習経験を振り返りながら、自分の課題を解決していけるような授業づくりをする。 ②授業の中で、友達との対話や協働によって課題に取り組む学習形態を取り入れる。
担当	教務、重点研推進委員会

学力向上に関わる本校の状況

★児童の学力にかかわる実態とこれまでの取り組み状況
令和4年度に行われた横浜市学力学習状況調査では、現3年生から現6年生までの学力や学習・生活に対する意識の結果が得られた。現5・6年生では市平均を上回った。特にR2年度から3年間重点研究の教科として取り組んできた算数科の結果は、どの学年においても、市平均以上またはそれに近い結果となり、概ね良好であった。一方で市平均と比較して気になるのが、国語科の結果である。コミュニケーション能力の根幹とも言える、自分の思いを言語化したり相手に伝えたり、相手の思いを聞き取って考えを深めることについては、育成が必要であると考え。生活意識調査も考え合わせると、児童自身も学校の重点目標(あいさつ・体力アップ・読書)を意識していたり、学校生活における家庭の支援が十分にある家庭が多かったという現状がうかがえる。



今年度の目標

- ①重点研のテーマである「自分ごととして取り組み、伝え合い、自分を見つめる子の育成」を意識した授業づくりにブロックで取り組む。
- ②教科・領域等で育成したい資質・能力や評価について、情報を収集しながら研究し、実践・共有する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>○上半期は、子どもの実態を把握し、育てたい資質・能力の具体を設定する。 【1年生】学習内容が分かるように、めあてを提示したり絵や写真などの視覚に訴える物を活用したりする。 【2年生】めあてを明確に示して、児童が学習の流れを把握できるように努める。児童の学習状況を見とり、個別に支援を行い、達成する経験を重ねることによって最後までやりとげる姿勢を育てる。 【3年生】学習問題をつくることを大切にしながら、どのようにして解決できるか見通しをもたせる。 【4年生】見通しをもち、どのように解決するか、よりよい解決の方法はないか具体的に考えながら取り組んだり、自らの学習の様子を振り返ったりする経験を重ねる。 【5年生】経験や既習を生かし、課題を自分に引き付けることで課題に見通しをもち、取り組み、振り返り、次に生かそうとするようにする。 【6年生】学習の見通しを児童と共有し、学習のめあてや展開、学習の仕方などを選択する機会を増やす。獲得した力を、児童自身が認知できるよう、振り返りの仕方を工夫する。 【個別支援級】児童の発達段階に応じた適切な教材や指導方法を工夫し、伝えたい思いや意欲を高める。</p>	<p>○下半期は、ブロックごとに設定した「育てたい子どもの姿」をもとに授業づくりを行い、授業公開をしながら、授業改善に努める。 【1年生】ペアやグループなど、複数人での学習形態を取り入れ、学習を振り返る活動を取り入れる。児童が学習内容を自分ごととして捉え、自分の思いをもち、その思いを膨らませたりできるように学習内容に沿った身近な素材や話題を取り上げる。 【2年生】学習を振り返る活動で、自分や友達のよさを認め合えるようにする。自分の思いや考えを表現してみようと思える発問の工夫や授業づくりを行い、自分の考えをもち、伝えあつたりすることができるようにする。 【3年生】友達のことを自分のとの相違点を考えながら聞き、お互いの考えのよさを認め合う。自分の考えをもち、相手が分かりやすいように伝えたり、相手が話したことを最後まで聞いたりする。 【4年生】相手との対話を通して、互いの意見を共通点や相違点に着目しながら比べたり、根拠などに目を向けたりする。ペアやグループ、全体に向けてなど様々な場面で伝え合う活動を行う。自身のもの見方や考え方を多面的に広げることができるようになる。 【5年生】相手の立場や思いを受け止め、自分の思いと調整できるようにする。伝えたいことを明確にし、自分の考えを相手や場面、状況に応じた表現方法を考えられるようにする。 【6年生】多様な学習形態や、協働的に取り組む活動を取り入れ、周囲の人々と関わりながら学ぶ経験を増やす。言葉への興味関心を高め、対話や議論での交流を楽しむ学習展開を取り入れる。 【個別支援級】生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けられるように、一つひとつの活動を大切に。相手を意識してよりよいかかわりができるように、具体的なモデルを示す。</p>

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①学年やブロックで連携しながら子どもの実態をつかみ、多面的に子どもの様子を把握し児童を理解する。②全教育課程で子どもの心を育てていくことを意識できるよう道徳教育全体計画と別業を活用する。③道徳の授業を軸に、学級活動で自分のよさを認識、発揮したり、他者への思いやりを育んだりし、道徳で学んだことを生かすようにする。
担当	道徳、指導部

豊かな心に関わる本校の状況

本校の児童は、落ち着いて学習に取り組み、誰とも仲よく遊ぶことができる。素直に物事を受け止めるられることが多く、もつとできるようになりたいという気持ちをもっている。しかし、自分の気持ちを言語化したり、体調不良に現れたり、気分が落ちこんだり、心のもやもやをため込むことがある。自分の思いを適切に表現することが苦手な面が見られる。また、相手の立場や気持ちを考え、コミュニケーションをとることが苦手な児童がみられる。また、道徳的な価値は知っているが、実践できない面や、集団でのまとまり(仲間づくり)が弱い面もある。日頃の道徳の授業を中心として、様々な授業、行事、体験活動で経験を通して道徳で学んだことを振り返り、自分の考え方、感じ方の広がりを目指す。

今年度の目標

- ①学年やブロックで連携しながら子どもの実態をつかみ、多面的に子どもの様子を把握し児童を理解する。②全教育課程で子どもの心を育てていくことを意識できるよう道徳教育全体計画と別業を活用する。③道徳の授業を軸に、学級活動で自分のよさを認識、発揮したり、他者への思いやりを育んだりし、道徳で学んだことを生かすようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>【道徳教育】道徳科を要した学校の教育活動全体を通じた道徳教育 ・これまでの校内研究の成果を生かして、毎回の授業を充実させます。 ・学年ブロックで連携し、様々な視点や場面から、子どもたちの実態をつかみ、授業づくりや指導に生かします。 ・授業参観や研修を通して、授業づくりの実践に努めます。 ・道徳教育全体計画と別業を活用し、全教育課程で子どもたちの心を育てます。</p> <p>【特別支援教育】 ・特別支援教育(自閉症研修)等の研修を年1回以上行います。 ・YPAセサメントを実施し、ブロック研等で検討を行い具体的な支援方法を考えます。 ・児童の共通理解全体会を年6回実施します。また、必要に応じて、ケース会議をもち、具体的な支援方法や支援体制を考えます。</p>	<p>【人権教育】自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める教育 ・YICA、外国語の授業で、異文化に直接触れ合うことや、外国語を用いたコミュニケーション体験の機会を増やします。</p> <p>【自分づくり(キャリア)教育】夢や希望、目標を持てる子どもを育成する自分づくり教育 ・なかよし活動を充実させ、それぞれの立場で自分の責任を果たす実践力や主体性、思いやりの心や協力する心を育てます。 ・地域の人や材とかかわる学習を展開し、まちを愛する心を育てると共に互いのよさへの気づき、公共心・公德心を育てます。</p>

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①体力づくりとともに仲間づくりを推進し、体と心の健康の保持・増進・向上をめざす。②楽しく進んで運動し、バランスのよい体力づくりに取り組む。③仲間と一緒に体を動かすことを通して、自分のよさ・様々な人やもののよさをとらえるようにする。
担当	体育、指導部

健やかな体に関わる本校の状況

★体力に関わる児童の実態とこれまでの取り組み状況
新型コロナウイルス感染症の拡大で、家で過ごすことが増えたり、行動が制限される時間を過ごしたりする中で、子どもたちの運動の機会が減っていることが原因として考えられる。今年度は新型コロナウイルスによる活動の制限もなくするため、仲間とのつながりや他学年との交流も取り入れ、積極的に体を動かす仕組みをつくっていききたい。外遊びの推進をする中で、縄を使ったリズム運動、跳躍運動を通して、タイミングやバランスよく動いたり、リズムカルに動いたり、力の入れ方を加減したりする体の動きを高めていきたい。また、一定の時間続けで行うことで動きを継続する能力を高めてきたい。引き続き、縄を使った運動で子どもたちの体力を高めていく。

今年度の目標

- ①体力づくりとともに仲間づくりを推進し、体と心の健康の保持・増進・向上をめざす。②楽しく進んで運動し、バランスのよい体力づくりに取り組む。③仲間と一緒に体を動かすことを通して、自分のよさ・様々な人やもののよさをとらえるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>○短縄集會、長縄集會を行い運動するきっかけづくりをする。 ・短縄集會では、縄を使ったリズム運動を行う。縄を地面においてジャンプをしたり、縄を様々な方向に回したり、持続してリズムよく跳んだりする。 ・前期はなかよし活動を中心とした「なかよし長縄」を行い、教え合ったり見合ったりする中で、「友達と運動するって楽しい」「外遊びしてみようかな」と感じられるようにする。目標回数は全校で1540(ひがししょう)回とする。 ・高学年が低学年に教えることで、運動が苦手な子どもでもできるような機会をつくる。 ○体育、保健の授業を通して、運動、健康に関する知識・技能を身に付ける。 ・体の状態と心の状態はつながっていて、体の状態がよくなると心も明るくなることや、運動することで体の諸器官が発達することなど、知識を得ることで自分の生活に生かそうとする態度を育てる。 ・体育の授業を通して、ボール運動、器械運動、陸上運動、表現運動(リズムダンス)など、様々な単元から運動を経験し、自分の技能を高めていく。</p>	<p>○体力アップ週間で短縄に取り組む。 ・年間を通して活用できる短縄カードを用意し、自分ができるようになりたい技を見つけやすくし、できるようになっていくことを実感できるようにする。 ・部屋で過ごしがちな冬に体力アップ週間を設定することで、外遊びを推進する。 ・友達と一緒に取り組むことで、一緒に高め合う楽しさを味わうと共に、一人でも取り組み、運動することができるよさを生かす。</p> <p>○長縄集會でクラスの記録に挑戦する。 ・後期は学級を母体とした「ニコリ長縄」で2056(ニコリ)回を目指して全校で取り組む。</p>